

赤血球抵抗試験				315000
				担当部署
ERT				血液
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		<p>①高コレステロール血症では，赤血球膜コレステロール含量が増加し，浸透圧脆弱性亢進がマスクされる。</p> <p>②溶液の pH の低下や温度の低下は，浸透圧脆弱性を亢進させる。</p> <p>③クエン酸塩やシュウ酸塩はリン酸緩衝液中の食塩濃度が変化するため使用できない。</p>		
検査受付時間		8 : 15～16 : 00		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 全血	1 紫	EDTA-2K	2	mL
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		室温		
検体受入不可基準		<p>1) 採取容器違いの検体</p> <p>2) 凝固検体</p> <p>3) 採血量過不足の検体</p> <p>4) サンプリングできない検体</p>		

保管検体の保存期間	室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）					
<b>検査結果・報告</b>						
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部					
測定時間	当日中					
生物学的基準範囲	NaCl 0.85 % 溶血度 0 %、NaCl 0.75 % 溶血度 0 %、NaCl 0.70 % 溶血度 0 %、NaCl 0.65 % 溶血度 0 %、NaCl 0.60 % 溶血度 0 %、NaCl 0.55 % 溶血度 0 %、NaCl 0.50 % 溶血度 0~6 %、NaCl 0.45 % 溶血度 5~45 %、NaCl 0.40 % 溶血度 50~95 %、NaCl 0.35 % 溶血度 90~99 %、NaCl 0.30 % 溶血度 97~1					
臨床判断値	設定なし					
基準値					単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因	特記事項なし					
臨床的意義	<p>先天性溶血性貧血のうち、その形態から、特に遺伝性球状赤血球症あるいは遺伝性楕円赤血球症を疑うとき、MCHC が 36%を超えるとき（遺伝性球状赤血球症の可能性が高い）などに実施される。</p> <p>パールパート法では、赤血球を低張塩類溶液に接触させたときの、溶血の起こりやすさを定量的に測定する。溶血の起こりやすさは、赤血球の表面積/容積比によって規定される。比が小さいとき、すなわち赤血球が球状のときに脆弱性が亢進（抵抗性が低下）し、比が大きいとき、すなわち赤血球の厚さが薄いときに脆弱性が低下（抵抗性が増大）する。</p> <p>パールパート法において脆弱性が亢進（抵抗性が低下）していれば、被検赤血球に表面積/容積比が小さくなるような形態の異常が存在することがわかる。具体的には、球状赤血球、楕円赤血球、有口赤血球などである。</p> <p>EX 共通 CL1084：「三輪血液病学 2006」1913</p>					